

## 組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名： **グローバル人材育成院**

部局長名： **鈴木 孝義**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)	
<b>⑤センター・機構等業務</b>	<b>センター・機構等業務における目標の達成状況</b>	
<p>全学と連携してCOVID-19対策を実施しつつ、以下の国際関連業務に取り組む。</p> <p>①国際的な単位互換システムに基づく共同教育プログラムの策定に向け、国立六大学国際連携機構と協力しながら、ASEAN大学連合(AUN)の単位互換制度ACTS(ASEAN Credit Transfer System)導入の調整を行う。また、欧州単位互換制度ECTS(European Credit Transfer System)を採用する欧州内の協定校と協議を開始する。</p> <p>②COVID-19禍からの回復状況に合わせ、オンラインプログラムも活用しつつ短期留学プログラム(EPOK)や語学・短期研修プログラムの充実を図る。また、学部・研究科が実施する留学プログラムによる派遣を推進するための必要な支援を行う。</p> <p>③大学院予備教育特別コースでは、これまでと同様に優秀な留学生を確保しつつ、実施上の諸課題を踏まえた実効性を重視した体制の整備を行い、コース定員の倍増に取り組む。</p> <p>④全学を対象とした海外留学に関する危機管理セミナー及び新入生対象の全学ガイダンス等を継続して実施し、海外派遣学生の危機管理意識の向上を図る。また、COVID-19禍からの回復状況に合わせた危機管理情報を海外派遣予定学生に適宜提供する体制を整備する。</p> <p>⑤外国人留学生及び日本人学生が混住する宿舎では、COVID-19対策を適切に実施しつつ、多文化理解及び活発な交流に資する取組等を実施する。</p> <p>⑥国立六大学国際連携機構を活用し、ASEAN大学ネットワーク(AUN)、中国卓越大学連盟(Excellence 9)及び台北大学連盟(UST)との協働による質の高い連携プログラムの実施に向けて準備を進める。</p> <p>⑦コロナ禍の中、米國務省重要言語奨学金(CLS)プログラムをオンラインにより着実に実施し、かつポストコロナに向けた対面実施プログラムの準備を進める。</p> <p>⑧ポストコロナに向け、岡山大学ライデン大学日本語日本文化研修プログラムの実施方法等について協議を開始する。</p> <p>⑨O-NECUSプログラム(岡山大学・中国東北部大学院留学プログラム)を推進するとともに、本プログラムを東アジア域内の他大学に拡大することの検討を開始する。</p> <p>⑩日本留学海外拠点連携推進事業(東南アジア)を核として、ミャンマー国内2カ所及びバンコク(タイ王国)に設置した事務所及び留学コーディネーターを中心に、コロナ禍の中でも可能なオンラインを活用したアカデミックセミナーや日本留学フェア・ジョブフェアを開催し、ASEAN地域からの日本への優秀な留学者の増加を図る。</p> <p>⑪コロナ禍の中での留学に対する学生のニーズ調査を実施し、ニーズを踏まえた協定校開拓、オンラインを含めた留学プログラムの開発を行う。また、ポストコロナを見据えた現行プログラムの改訂に向けた準備を進める。</p> <p>⑫グローバル人材育成特別コースの現行カリキュラムについて、コロナ禍の中での学生のニーズを把握・検証し、海外派遣が困難な状況となっている学生の支援を強化するとともに、ポストコロナを見据えた発展的な教育環境の見直しを検討する。</p> <p>⑬グローバル人材育成特別コース及び同学部・学科型プログラムについて、部局と連携しながら、コロナ禍においても留学・異文化体験が可能な実施方法を開発する。</p> <p>⑭大学院予備教育特別コースに優秀な志願者を多数獲得しつつ、コースの定員倍増を実現するため、留学生募集の広報活動を充実させるとともに、拡大後のコースの円滑な運営に向けた体制を整備する。</p> <p>⑮国際同窓会との連携強化を図る。また、他大学や部局との共同利用を含め海外事務所の拡充及び効率的な運用の検討を進める。</p> <p>⑯中国赴日本国留学生予備教育について、コロナ禍の状況にあった専門日本語予備教育を提供する。</p> <p>⑰ASEAN大学ネットワーク(AUN)、中国卓越大学連盟(Excellence 9)及び台北大学連盟(UST)との連携強化を軸に、国立六大学国際連携機構によるグローバル人材育成支援のための事業を推進する。</p>	<p>目標に関連する年度計画の番号</p>	<p>①ACTS事務局及びAUN事務局との協議を重ねた結果、2022年度から、ACTSによる単位互換システムによるAUNとの学生交流を実施することとなり、2021年10月にACTS事務局ウェブサイトに登録し、受入学生の募集を開始した。2022年度から開始する学生交流に向けて、AUN加盟30大学をEPOKと同様に派遣対象校とする制度を整備した。</p> <p>②EPOKではオンライン履修を一部継続しつつ9月から実派遣を再開し、短期語学研修はオンラインプログラムを前年度より12コース多く実施した。部局におけるハイブリッド型授業を組み込んだプログラムの新規開発及び既存プログラムの拡張、並びにオンラインを通じた海外大学等との交流など、ポストコロナを見据えた学生派遣・受入促進に資する取り組みを支援した。</p> <p>④「岡山大学国際交流等に伴う危機管理マニュアル」を新たに作成し、派遣期間が3か月以上の留学(海外派遣)について、学生の安全確保が可能なこと等を条件として、リスクアセスメント及びBIAを実施しBCSを策定した上で、派遣の可否判断をする危機管理体制を整えた。12月には全学教職員・学生を対象に「危機管理ガイダンス」をオンライン開催し、その後全学に向けてオンデマンド配信した。</p> <p>⑤宿舎入居者の安全を最優先して宿舎の感染防止対策に努めつつ、レジデント・アシスタントを中心としたオンライン上での日本人学生と留学生との交流を推進し、4件のオンライン交流イベントを実施し、84名の学生が参加した。</p> <p>⑥⑦国立六大学国際連携機構では、コロナ禍での取り組みとして、AUNとの共催によりAUN加盟大学と国立六大学の学生を対象としたオンラインプログラムを10月と3月に開催し定員を超える申込みがあった。USTとは令和2年度に締結した交流協定に基づき研究者を対象としたジョイントシンポジウムを12月にオンラインで開催し、本格的な交流をスタートさせた。E9とは協力協定の更新に向けた調整を行った。</p> <p>⑦アメリカン・カウンシルズ(AC)から委託された米國務省重要言語奨学金(CLS)プログラムをオンラインで実施し、令和3年度は32人の学生が米国各地から参加した。また、ACによるプログラム評価では、前年度に引き続き高評価を得た。なお、令和4年度のプログラムは、オンラインで実施することになった。</p> <p>⑨O-NECUSプログラムを推進するため、参加部局へ活動経費の支援を行い、コロナ禍での学生募集等を継続して実施した。また、鄭州大学との交流の可能性について検討を開始した。</p> <p>⑩カンボジア、ラオス、ASEAN全体向け日本留学フェアをオンラインで計3回開催し、延べ4,047人の日本留学意欲向上につなげた。Academicセミナーやキャリアセミナーなど、各種オンラインセミナーを63回開催し、延べ6,243人の参加があった。ミャンマー事務所を中心に計1,128件の留学相談に対応した。カンボジアに新たな現地事務所を設置し、ラオスでも現地事務所の設置準備を進めた。</p> <p>⑫アンケートや面談等でコロナ禍におけるコースの学習や留学についての学生のニーズを把握し、留学準備としてオンライン留学や日本留学海外拠点連携推進事業と連携した国際的な活動等への参加を推進した結果、令和2～3年度に渡るGコース生の参加延べ数は250名以上にのぼり、令和2年度から約2.6倍に増加、コロナ禍での留学・異文化体験の機会を提供し、海外留学の意欲向上をはかることができた。</p> <p>⑬⑭大学院予備教育特別コースに、2022年度から既存の基礎、応用クラスに加え、新たに入門クラスと専攻科クラスを開講し、コース定員を60人に倍増した。また、学内教職員を対象とした説明会を実施するとともに、本学中国事務所、日本留学拠点事業担当者等に学生募集の協力を依頼した。さらに、TAや学習サポーターの雇用などコース充実と円滑な運営に必要な体制を整備した。</p> <p>⑮国際同窓会のウェブサイトを多言語化し、SNSやオンライン活動で各海外支部等、海外事務所との連携強化を図った。オンライン総会等で在学留学生と同窓生との交流を深めた。</p> <p>⑯中国赴日本国留学生予備教育では、専門日本語予備教育を全授業オンラインで中国現地の学生に提供した。</p> <p>・岡山大学・フェエ大学院特別コースでは、コロナ禍で渡日できない学生の一部に対して、オンラインでの研究指導やイベントを実施した。現地での研究支援のため、改正した奨学金支給基準に基づき、学生に月々20,000円の奨学金を支給した。</p> <p>・留学生の入国に際し、本邦の防疫措置を確実に実施するために必要な体制整備と、入国する外国人留学生への宿泊施設・移動手段等の情報提供などの支援を行った。</p> <p>・グローバル人材育成院所属教員の部局における国際コーディネーターを配置し、国際交流協定の締結支援や留学生等の受入支援等、部局サポートの実質化を図った。</p> <p>・インドネシア政府派遣留学プログラム実施校に採択され、交換留学生の受入を開始した(コロナ禍により実際の受入は中止された)。</p>